

平成30年度 事業報告書



日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

1	救護活動	P3
2	国際活動	P8
3	医療事業	P9
4	看護師養成事業	P11
5	血液事業	P12
6	救急法等の講習	P13
7	赤十字ボランティア	P16
8	青少年赤十字	P17
9	広報活動	P18
10	会員の加入促進と活動資金の募集	P19
11	平成30年度一般会計歳入歳出決算概算書	P21

1

救護活動

日本赤十字社が行う災害救護活動は、医療救護やこころのケア、救援物資の配分、血液製剤の供給、義援金の受付など多岐にわたります。これらの活動は、赤十字の理念に基づき日本赤十字社独自の判断で自主的に行われるほか、災害救助法や災害対策基本法に則り、指定公共機関として国や地方公共団体への協力も義務づけられています。

さらに日本赤十字社は、国民保護法においても指定公共機関として医療救護や救援物資の配分、血液製剤の供給、外国人の安否調査など国民の保護のための措置について、自主性を尊重されつつも国や地方公共団体への協力が義務づけられています。

「平成30年7月豪雨災害」においては県外11の府県支部の応援を得ながら避難所等での医療救護をはじめ、こころのケア・救援物資の配分・義援金の受付・災害ボランティアセンターの支援等を行いました。

●「平成30年7月豪雨災害」における救護活動

県下到大雨特別警報が発令された7月6日から救援物資の輸送などを開始。

県下各地の被害状況が判明した翌7日から、水害を免れたいのちと健康を守るため医療救護班を倉敷市や高梁市に派遣し、避難所に開設した救護所での診療やこころのケアの活動を開始するとともに、活動調整を行うための日赤災害医療コーディネーターも災害保健医療調整本部等で活動しました。

平成30年7月豪雨災害での活動概要は下記のとおりです。

種別	期間	内容
医療救護班の派遣	平成30年7月8日～26日	35班297人
日赤災害医療コーディネートチーム	平成30年7月7日～19日	7チーム23人
こころのケア	平成30年7月14日～31日	ケア班5班17名、調整班4班7人
救援物資の輸送	平成30年7月6日～10月2日	毛布11,198枚、バスタオル3,378枚、タオルケット3,500枚、緊急セット1,280セット等
防災ボランティアの活動	平成30年7月6日～	延べ640人（平成31年2月15日現在）



●救護員の任命

災害時、直ちに被災地に出動し被災者への救護活動が行えるよう、救護班9個班（岡山赤十字病院8個班、玉野分院1個班）を編成するとともに、災害対策本部要員、DMAT 要員、薬剤師、血液搬送要員等を任命し、「岡山県支部災害救護計画」を基本とした体制を整備しました。

また、災害時における医療ニーズを把握し災害医療救護関係機関との救護班活動調整等を行う日赤災害医療コーディネートチームを2チーム編成しました。

救護員の任命状況（人）

	日本赤十字社 岡山県支部	岡山赤十字病院	岡山赤十字病院 玉野分院	岡山県赤十字 血液センター
常備救護班		8個班	1個班	
	医師	8人	1人	
	看護師長	8人	1人	
	看護師	16人	2人	
	主事	16人	2人	
災害対策本部要員	15人	11人		10人
DMAT 要員	4人	28人		
薬剤師		6人		
血液搬送要員				2人
日赤災害医療 コーディネーター		2人		
日赤災害医療 コーディネートスタッフ	2人	4人		

●救護員の訓練・研修

救護員の救護技術の向上を図るとともに他機関との連携を密にするため、次の災害救護訓練に参加し、研修を実施しました。



災害救護訓練の内訳

訓練名	実施日	実施場所	訓練内容等
			主催団体
岡山県水害特別防災訓練	平成30年6月6日	岡山県庁	図上訓練
			岡山県
水島地区石油コンビナート 総合防災訓練	平成30年11月6日	三菱ケミカル(株) 水島事業所	実働訓練 岡山県石油コンビナート等 防災本部
岡山県図上防災訓練	平成31年1月17日	岡山県庁	図上訓練
			岡山県

救護員対象研修会の実施・参加

研修会名	実施日	内容
救護員研修会 (基礎研修)	平成30年4月22日	赤十字の災害救護活動、トリアージ、救護所運営、救護所シミュレーション等
救護員研修会 (実践研修)	平成30年11月23日	災害時診療記録、避難所アセスメント演習、広域災害救急医療情報システム (EMIS) 等
救護員研修会 (職種別研修)	平成30年6月23日	無線通信、広域災害救急医療情報システム (EMIS)
こころのケア研修	平成30年6月30日	概論、被災者へのこころのケア、救護員のこころのケア等
全国赤十字救護班研修	平成30年10月5日～7日 平成31年2月16日～18日	赤十字の災害救護活動、トリアージ、職種別実習、避難所アセスメント活動演習等
日赤災害医療 コーディネート研修	平成30年12月7日～8日 平成31年1月26日～27日	概論、災害医療コーディネート事例検討、本部運営と情報収集、総合演習
災害対策本部要員研修	平成31年2月21日～22日	日赤の医療資源、通信の確保、記録、本部運営演習等



学生訓練への協力

学校名	実施日	内容
ソワニエ看護専門学校	平成30年6月14日	講義、救急法講習
岡山赤十字看護専門学校	平成30年9月14日	講義、基礎行動、担架搬送、総合演習等
岡山済生会看護専門学校 ほか3校	平成30年9月28日～29日	講義、基礎行動、非常食炊き出し、担架搬送等
岡山労災看護専門学校	平成30年10月19日	講義、救急法講習、基礎行動、総合演習等
新見公立大学	平成31年1月28日～29日	講義、救急法講習、演習等

●被災者の救援

県下での火災等による罹災者に対し、地区・分区を通じて救援物資及び弔慰金をお届けしました。

救援物資等配分の内訳

種類	交付基準	配分数
毛布	1人につき1枚	2,256枚
緊急セット	原則1世帯（4人分） につき1セット	511セット
バスタオル	1人につき1枚	1,064枚
弔慰金	死亡者1人につき 20,000円	340,000円

罹災世帯数等

区分	世帯数
全焼	68世帯
半焼	6世帯
避難	0世帯
その他	14世帯
計	88世帯

死亡	17人
----	-----

●義援金・救援金の受付

平成30年度における受付状況は以下のとおりです。

義援金受付状況

名称	件数(件)	金額(円)
東日本大震災義援金	101	815,541
平成28年熊本地震 災害義援金	85	1,170,053
平成29年7月5日からの 大雨災害義援金	26	398,281
平成30年大阪府北部 地震災害義援金	16	315,926
平成30年米原市竜巻 災害義援金	3	47,170
平成30年7月豪雨災害 義援金	5,211	11,310,255,916
平成30年北海道胆振 東部地震災害義援金	70	8,134,580

救援金受付状況

名称	件数(件)	金額(円)
海外一般救援金	1	297
中東人道危機救援金	4	50,202
バングラデシュ南部 避難民救援金	3	30,000
2018年インドネシア・ ロンボク島地震災害 救援金	7	58,100
2018年インドネシア・ スラウェシ島地震災害 救援金	10	102,050

●災害救護用資器材の整備

災害時の救護活動に欠くことのできない資器材の整備、充実に努め、常に点検を行い、資器材の活用が一層有効に行われるよう、万全を期しています。

平成30年度は次の資器材を整備しました。

品目	整備数
赤十字業務用無線	18
携帯型超音波画像診断装置	1
ストレッチャー型担架	10
折畳式ホワイトボード	4
簡易型トイレ（1箱100回分）	90



●地区・分区資器材等整備事業

地域の災害対応能力強化のため次のとおり資器材等を配備しました。

品目	配備数	配備先
災害救援車両	9	倉敷市地区、津山市地区、総社市地区、真庭市地区、浅口市地区、 矢掛町分区、新庄村分区、奈義町分区、美咲町分区
倉庫	4	笠岡市地区、真庭市地区、浅口市地区、美咲町分区



●臨時救護の実施

不特定多数の人々が集う公共的なイベント、スポーツ大会等において、参加者等の安全を図るために、医師・看護師・主事等で編成した医療救護班やボランティアを下記のとおり派遣しました。

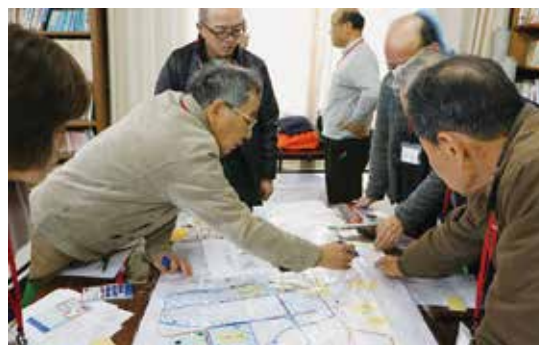
実施日	行事名	派遣者数 (人)	取扱傷病 者数(人)
平成30年4月15日	津山加茂郷フルマラソン全国大会	18	9
平成30年10月12日	蒜山高原マラソン全国大会	14	11
平成30年11月11日	おかやまマラソン	25	30
平成31年2月16日	西大寺会陽	37	5
平成31年2月24日	そうじゃ吉備路マラソン	19	61
計		113	116



●防災教育事業「赤十字防災セミナー」の開催

災害からいのちを守るため、地域コミュニティにおける「自助」「共助」の力を高めることを目的に、平成29年度から本格的に取り組みを始めたもので、町内会・自治会等へ下記のとおり指導者を派遣しました。

プログラム名	内容	件数 (件)
図上防災訓練 (DIG)	住民が居住地域の防災上の脆弱性や強みを地図上で確認し、地図を囲んでの意見交換を通じて防災意識を高める。	1
災害エスノ グラフィ	過去の大規模災害の被災者の経験談を再編集した読み物を通じて災害を追体験し、被災の具体的なイメージを理解する。	1
非常食炊き出し	炊飯袋等を使用した非常食の体験を通じて災害時の食を考える。	15
災害への備え (講義)	災害から命を守り身の安全を確保するために平時から準備すべきことを理解する。	20
その他	身近にあるものを用いた応急手当等や一次救命処置を体験する。	7
計		44



2

国際活動

赤十字では、国際・国内紛争による被災者への医療や食料等の救援を実施するほか、ジュネーブ条約に基づいて、戦闘に直接参加していない負傷兵や一般市民の保護にあたっています。

また、自然災害等によって被害をうけた被災地への復興支援や防災を通じた地域の基盤づくり等にも取り組んでいます。

平成30年度、岡山県支部では下記の事業を実施しました。

●アジア・大洋州給水・衛生キット支援事業

岡山県支部では、アジア・大洋州で洪水やサイクロンなどの災害に頻繁に見舞われる国や地域に対し、給水・衛生キット支援事業における資金的援助を平成22年度以降、引き続き行いました。

●インドネシア・コミュニティ防災事業

岡山県支部では、災害多発国であるインドネシアに対し、地域に根差した包括的な防災、減災活動にかかる資金的援助を引き続き行いました。



●東ティモール赤十字社救急法普及支援事業

日本赤十字社では、アジア・大洋州地域の姉妹赤十字・赤新月社が実施する救急法等の普及支援事業の一環として、東ティモール赤十字社が行う救急法の普及事業を2004年から継続して支援しています。

岡山県支部では、資金援助のほか職員1名を評価要員として東ティモールへ派遣しました。

●NHK 海外たすけあい

12月1日から25日の期間でNHKと共同で募金活動を実施しました。

名称	件数(件)	金額(円)
平成30年度(第36回)「NHK海外たすけあい」	644	5,412,675

3

医療事業

岡山赤十字病院（500床）、岡山赤十字病院玉野分院（83床）、岡山赤十字老人保健施設（100床）において、高度急性期医療をはじめ、慢性期医療から介護まで特色ある医療事業を展開しています。

各施設においては、公的医療機関として、また地域の安定的な医療体制を確保するため、地域医療の連携推進を図りながら、地域からの信頼に応えた安心・安全な医療を提供しています。

●岡山赤十字病院

岡山赤十字病院では、県南東部医療圏の中核病院として、平成30年度においても救命救急センターとしての救急医療、地域がん診療拠点病院等の先進医療、基幹災害拠点病院として災害医療・救護を担い、公的医療機関としての役割を推進しました。

4月の診療報酬改定の柱は、かかりつけ医との機能分化と連携の強化、安心・安全なさらなる質の高い医療の提供、医療従事者の負担軽減及び働き方改（快）革でした。

当院では、平成30年4月に「患者サポートセンター」を立ち上げ、患者さんの目線に立ち、入院から退院まで、さらには在宅診療も含め切れ目のないワンストップサービスを提供することができるよう医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職員等が協力して取り組んでいます。

あわせて地域の医療機関と合同での研修会・講演会等を頻回に開催することにより全職員が協力して連携強化を推進しています。

7月には、「平成30年7月豪雨災害」に対して、発災直後より災害対策本部を立ち上げ、県や倉敷市と協力しながら7日から31日まで、医師、看護師、メディカルスタッフ、事務等延べ131人の職員が岡山県庁・日赤岡山県支部等でのコーディネーター活動、倉敷市真備地区での救護活動・こころのケア活動を行い赤十字の使命を全うしました。

患者数（人間ドック・健診を除く）

入院	延患者数	150,892人
	1日平均	413.4人
外来	延患者数	265,177人
	1日平均	1,091.3人



●岡山赤十字病院玉野分院

玉野分院においては、内科・リハビリテーション科・皮膚科・整形外科の4科で診療を行い、岡山赤十字病院との連携により急性期から慢性期への一貫性のある医療を提供しました。

玉野分院では回復期及び慢性期の患者が中心となることから、急性期病院からの転院が多く、急性期を脱した内科やリハビリを必要とする患者を受け入れました。

また、近隣の医療機関や介護施設からの紹介による入院や終末期医療を希望する患者の受け入れにもあたりました。

さらには、併設する老人保健施設とともに、在宅復帰を目的とした医療や介護サービスを提供し在宅医療の推進にも努めました。

患者数（人間ドック・健診を除く）

入院	患者数	26,338人
	1日平均	72.2人
外来	患者数	12,606人
	1日平均	51.9人



●岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム

病状が安定した高齢者等の心身の自立を支援し、介護機能を持った包括的ケアサービスを提供する役割を担い、高齢者の家庭復帰を目指しています。

また、ショートステイや通所リハビリを提供し、通所リハビリにおいては1日（6～8時間）コースに加え、平成28年末から短時間コースを創設したことにより、ニーズに沿ったサービス提供ができ、利用者の増加がみられました。

居宅介護支援事業所では、老健施設や通所リハビリの利用者だけでなく、訪問看護をはじめ、在宅で療養されている要介護者等に日常生活の世話や家族・介護者の介護負担軽減のためにホームヘルパー等の利用を提案し、利用者に合った最適な介護保険サービスのマネジメントに努めました。

利用者数

入所	入所者数	31,343人
	1日平均	85.9人
通所	通所者数	6,151人
	1日平均	25.3人



●「赤十字健康講座」の開催

広く県民の健康維持・増進を図ることを目的に、支部と各施設が連携し、医師や看護師等が岡山赤十字病院で講演を行う「赤十字健康講座」、地域からの要望により医師等を派遣し、講演を行う「健康講演」を開催しました。

また、学校の児童・生徒にアナフィラキシー症状（重篤なアレルギー反応）が出た場合に学校職員が対処できるよう、岡山県教育委員会と病院の医師・薬剤師、支部が連携して養護教諭等を対象とした「小児のためのアナフィラキシー研修」を開催しました。



実施状況

	健康講座	健康講演
実施回数	7回	20回
受講者数	772人	2,588人

4

看護師養成事業

昭和10年に始まった岡山県での赤十字看護師の養成は、80年を超えました。

岡山赤十字看護専門学校では、人道を基調とし、豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野をはじめ、災害救護の現場で活躍できる基礎的能力を持った看護実践者を育成しています。

恵まれた実習環境のなか、個性を尊重した教育が本校の魅力です。1年次は血液事業への参加、2年次は本社研修、3年次には災害看護演習など赤十字ならではの活動を経験します。

学生は、伝統を受け継ぎ、豊富な実習や赤十字活動のボランティアなどを通じて、看護のあり方と人道の精神を身につけ、患者の心に寄り添える看護師へと成長していきます。

卒業生は、岡山赤十字病院をはじめ、さまざまな分野で活躍し、社会に貢献しています。



学生数

平成31年3月31日現在

1年生	39人
2年生	43人
3年生	40人
計	122人

5

血液事業

岡山県赤十字血液センターでは、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤として、治療を必要とする患者さんのため、医療機関に供給する血液事業を展開しています。採血業者及び製造販売業者としての責務である血液製剤の安全性の確保・向上及び安定供給の確保並びに献血者の保護に努め、確実な血液事業の推進に取り組んでいます。

平成30年度における岡山県の献血者数は、76,129人（対前年度比100.9%）、人数で676人の増となりました。

内訳としては、400mL 献血者が52,196人（対前年度比97.6%）、200mL 献血者が1,702人（対前年度比108.3%）、成分献血者が22,231人（対前年度比109.1%）となりました。

性別・献血種類別献血者数

献血種類	献血者数			割合
	男	女	計	
200mL 献血	355人	1,347人	1,702人	2.2%
400mL 献血	40,056人	12,140人	52,196人	68.6%
血漿成分献血	6,317人	4,306人	10,623人	14.0%
血小板成分献血	9,774人	1,834人	11,608人	15.2%
計	56,502人	19,627人	76,129人	100.0%

年齢別献血者数

年齢	10代	20代	30代	40代	50代以上	計
献血者数	4,449人	11,424人	13,116人	21,927人	25,213人	76,129人
割合	5.9%	15.0%	17.2%	28.8%	33.1%	100.0%

●献血者確保対策事業

- 普及啓発活動
- 広報活動
- 献血推進組織の育成
- 若年層献血推進対策
- 固定施設の活性化

●その他の事業

- 骨髄ドナー登録の推進
- 医療情報活動の充実
- 地域に開かれた血液センターの展開
- 特殊製剤国内自給向上対策事業



6

救急法等の講習

日常生活や災害時など、急病やけがをしたとき、いつでも手を差し伸べて手当てをしたり、日ごろから健康に気をつけて快適な生活が送れるよう、各種講習を展開しました。

なお、「平成30年7月豪雨災害」の影響により一部講習の実施を中止しました。

●救急法

病气やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでの応急手当の知識や技術を普及するため、講習を開催するとともに、地域や職場、学校などに指導員を派遣して講習を実施しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
救急法	基礎講習	41	1,210	1,210
	救急員養成講習	15	410	403
	資格継続研修	5	63	
	短期講習	265	11,011	
計		326	12,694	1,613

●水上安全法

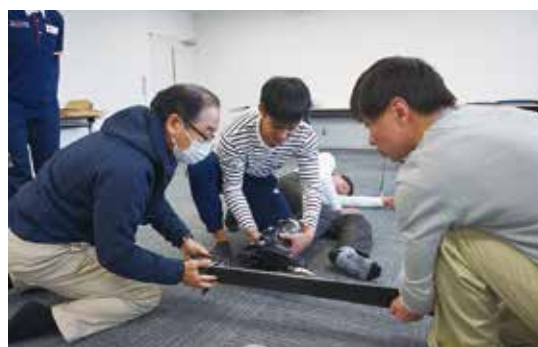
水の事故を防止し、積極的に水を活用して健康を増進し、万一事故が発生した場合には救助者自身の安全を確保しつつ事故者を救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでの応急手当の知識や技術を普及するため、講習を開催するとともに、地域や職場、学校などに指導員を派遣して講習を実施しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
水上安全法	救助員Ⅰ養成講習	1	21	16
	救助員Ⅱ養成講習	0	0	0
	資格継続研修	1	3	
	短期講習	8	317	
計		10	341	16

●雪上安全法

雪を活用して健康の増進を図り、雪上の事故から生命を守るための知識や技術を普及するため、講習を実施しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
雪上安全法	救助員Ⅰ養成講習	1	4	4
計		1	4	4

●幼児安全法

こどもに起こりやすい事故の予防と応急手当の方法、病気への対応の仕方の知識や技術を普及するため、地域、職場、学校などに指導員を派遣して講習を実施しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
幼児安全法	支援員養成講習	4	80	78
	資格継続研修	2	6	
	短期講習	54	1,343	
計		60	1,429	78

●健康生活支援講習

誰もが迎える高齢期を健やかに生きるために必要な健康増進の知識や高齢者の支援・自立に役立つ介護技術を普及するため、支援員の養成講習を開催するとともに、地域の要望により指導員を派遣し、「高齢者の健康と安全」「リラクゼーション」「介護技術について」「災害時高齢者生活支援」等の講習を実施しました。



講習名称			実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
健康生活 支援講習	支援員養成講習		3	25	24
	資格継続研修		2	4	
	短期講習	災害時高齢者生活支援講習	7	209	
		上記を除く短期講習	60	1,959	
計			72	2,197	24

●救急法競技大会

競技を通じ、赤十字救急法で学ぶ応急手当や救命手当の手技を習熟し、日常生活における安全意識を高めることを目的として開催しています。

平成30年度は10月27日に岡山赤十字看護専門学校体育館において「第5回岡山県赤十字救急法競技大会」の開催を予定していましたが、「平成30年7月豪雨災害」の影響により中止しました。

●ワールド・ファーストエイド・デー（世界救急法の日）

国際赤十字・赤新月社連盟が主唱する「ワールド・ファーストエイド・デー」（世界救急法の日=9月第2土曜日）に合わせて、救急法を身近に感じてもらうことを目的に、岡山県立図書館において、「図書館でワールド・ファーストエイド・デー」を開催しました。いざというときの手当の方法や事故予防の知識を得てもらうため、図書館所蔵の関連図書や一次救命処置のフローチャートなどを展示しました。



●AED（自動体外式除細動器）貸出事業

県内各地で開催されるイベント等の主催者に、日本赤十字社岡山県支部所有のAEDを貸し出すことにより、心肺停止等の傷病者の救命活動に備えています。

あわせて、県民がAEDに身近に触れる機会を提供することにより、支部が行う救急法等の普及促進を図り、県内各地における日本赤十字社岡山県支部の活動への理解を求めることを目的としています。

平成30年度は計22件の貸出を実施しました。



赤十字ボランティア

赤十字奉仕団は、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成された組織です。会員の募集、災害救護、献血の推進等さまざまな援助活動や地域のニーズに応じた社会福祉推進のための活動を県内各地で繰り広げており、行政が推進する地域包括ケアシステムの一端を担っています。

市町村の地域ごとに組織される「地域赤十字奉仕団」、アマチュア無線や点訳など専門技術を活かした特定の活動のために集まった人々によって組織される「特殊赤十字奉仕団」、社会人や学生によって組織される「青年赤十字奉仕団」が活動を展開しました。

●防災ボランティアの登録・養成

赤十字では、災害発生時に迅速かつ有効な災害救護活動を行うため、防災ボランティアを登録・養成しており、平成30年度は9月24日に登録説明会を実施しました。

「平成30年7月豪雨災害」では、救援物資の輸送や義援金受付の支援を行うと同時に、各社会福祉協議会が設置した災害ボランティアセンターの運営支援を行いました。

また、「災害支援ネットワークおかやま」に参画し、県下の防災関連ボランティアの連携強化に努めています。

●地域奉仕団の活動推進

「平成30年7月豪雨災害」のため、当初秋に予定していたリーダーシップ研修会を中止しました。

代わって支部委員会を開催し、災害時における各奉仕団の活動について情報共有し、さらなる活動の活性化について意見交換しました。

●特殊奉仕団の行う奉仕活動

赤十字奉仕団としての資質を向上し、より積極的に活動が展開できるよう研修を実施するとともに、次の活動を行いました。

- ①災害救護・臨時救護
- ②視覚障がい者支援のための点訳
- ③救急法・水上安全法・雪上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習普及
- ④その他支部事業への協力

●青年奉仕団の育成

赤十字や防災に関する基礎知識を習得するため、独自に研修会を開催したほか、よりよい活動が展開できるよう、平成30年8月31日～9月2日に香川県で開催された「中国・四国ブロック研修会」や平成30年8月25日～27日に開催された「全国リーダー研修会」に青年奉仕団員が参加しました。



8

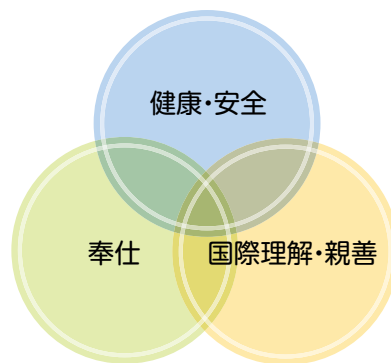
青少年赤十字

青少年赤十字は、子どもたちが「人のいのちと健康、尊厳」を大切にする人道的価値観を身につけ、行動できるようになることを目指して教育現場において教員等が指導者となり、活動を展開する事業です。

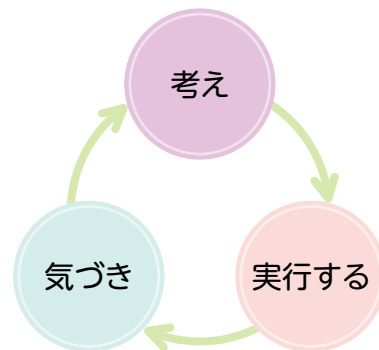
その活動は、「気づき・考え・実行する」という自主性に基づき、世界の青少年赤十字に共通している次の3つの実践目標を掲げて青少年の発達段階や各学校の取組みに合わせた活動を展開しています。

また、青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるほうさい」、幼保向け防災教材「ほうさいまちがいさがし きけんはっけん」の普及を中心としたメンバー育成のため、各加盟校にて研修会を開催しました。

青少年赤十字の実践目標



青少年赤十字の態度目標



青少年赤十字の加盟状況

種別	加盟校 (園)数	児童・生徒数 (人)			グループ数
		男	女	計	
幼稚園	2	115	112	227	8
保育園	35	1,190	1,166	2,356	131
小学校	43	4,085	3,709	7,794	342
中学校	34	2,675	2,582	5,257	196
高等学校	37	2,999	2,263	5,262	223
特別支援学校	2	41	29	70	9
計	153	11,105	9,861	20,966	909

※中学校・高等学校の加盟校数には中高一貫校4校を含む



赤十字の理念や活動内容等を広く周知することを目的として積極的なメディア露出に努め、また、活動資金の増強につながる広報、日本赤十字社キャラクターの「ハートちゃん」による若年層をターゲットとした広報に重点を置き、以下の広報活動を展開しました。

●広報資材

- 広報紙「赤十字おかやま」の発行
- 地区・分区、協力者等への赤十字新聞の配布
- 県下全域でのポスター掲示
- 会員加入促進のためのリーフレット・チラシの配布
- 事業計画書・事業報告書の作成・配布
- ノベルティグッズの作製・配布



●メディア広報

- CM 放送（テレビ・ケーブルテレビ・AM・FM）
- プレスリリースの発信による取材・報道
- 有功会員の協賛による新聞広告
- 新聞への記事広告掲載
- ホームページの積極的な更新
- フェイスブックページでの積極的な情報発信



●広報イベント

- 企業・地域等主催イベントにおける赤十字ブース(キッズ救護服撮影、車両展示、パネル展示等)の出展



●岡山赤十字フェスティバル

医療や看護、災害救護など赤十字の特色を生かし、赤十字に親しんでいただくこと、また、広報活動の一環として体験型イベント「岡山赤十字フェスティバル」を開催しました。平成30年度で4回目、来場者数は1,267人でした。

開催日：平成30年5月12日（土） 場 所：岡山赤十字病院

10

会員の加入促進と活動資金の募集

日本赤十字社岡山県支部が行う活動は、赤十字会員及び赤十字活動に賛同する方々からお寄せいただく活動資金により支えられています。

赤十字の各種活動を進めるためには、赤十字会員の増強や活動資金の安定的な確保を図る必要があります。

このため、5月の「赤十字運動月間」を中心に、赤十字会員への加入勧奨を行いました。

また、企業訪問やダイレクトメールによる協力依頼のほか、赤十字活動支援自動販売機やクレジットカード決済等による活動資金の募集にも努めました。

●活動資金の件数及び実績額

平成31年3月31日現在

地区名	件数(件)	実績額(円)
岡山市地区本部	61,796	46,620,792
倉敷市地区	59,026	41,883,901
津山市地区	11,216	10,257,700
玉野市地区	11,687	9,086,200
笠岡市地区	10,634	7,936,500
井原市地区	9,089	5,947,100
総社市地区	10,903	9,833,510
高梁市地区	6,921	5,656,624
新見市地区	4,443	4,015,000
備前市地区	6,661	5,129,612
瀬戸内市地区	6,105	4,754,770
赤磐市地区	6,313	5,025,330
真庭市地区	8,756	7,113,280
美作市地区	5,831	4,694,800
浅口市地区	5,753	4,675,400
和気町分区	3,364	2,611,500
吉備中央町分区	1,483	1,359,500
早島町分区	1,174	734,000
里庄町分区	2,733	1,361,500
矢掛町分区	3,652	3,511,250
新庄村分区	242	193,614
鏡野町分区	2,136	2,019,000
勝央町分区	1,943	1,835,500
奈義町分区	1,126	1,572,000
西粟倉村分区	387	333,000
久米南町分区	1,113	889,500
美咲町分区	2,756	1,981,100
支部扱い	4,255	125,208,904
計	251,498	316,240,887

※支部扱い：企業訪問・ダイレクトメール・赤十字活動支援自動販売機・クレジットカード決済等

※個人住民税控除対象となる海外救援金を除く

●赤十字有功章等伝達式

平成30年11月15日、日本赤十字社岡山県支部において「日本赤十字社有功章等伝達式」を開催し、多額の活動資金にご協力いただいた方々や功労者に対し、伊原木隆太支部長から赤十字有功章や感謝状等の伝達を行いました。



種別及び受章者数

種別		受章者数
日本赤十字社社長感謝状	個人	4人
	法人	13社
金色有功章	個人	4人
	法人	18社
銀色有功章	個人	7人
	法人	24社
紺綬褒章	個人	0人
	法人	0社
厚生労働大臣感謝状	個人	1人
	法人	0社



(単位：千円)

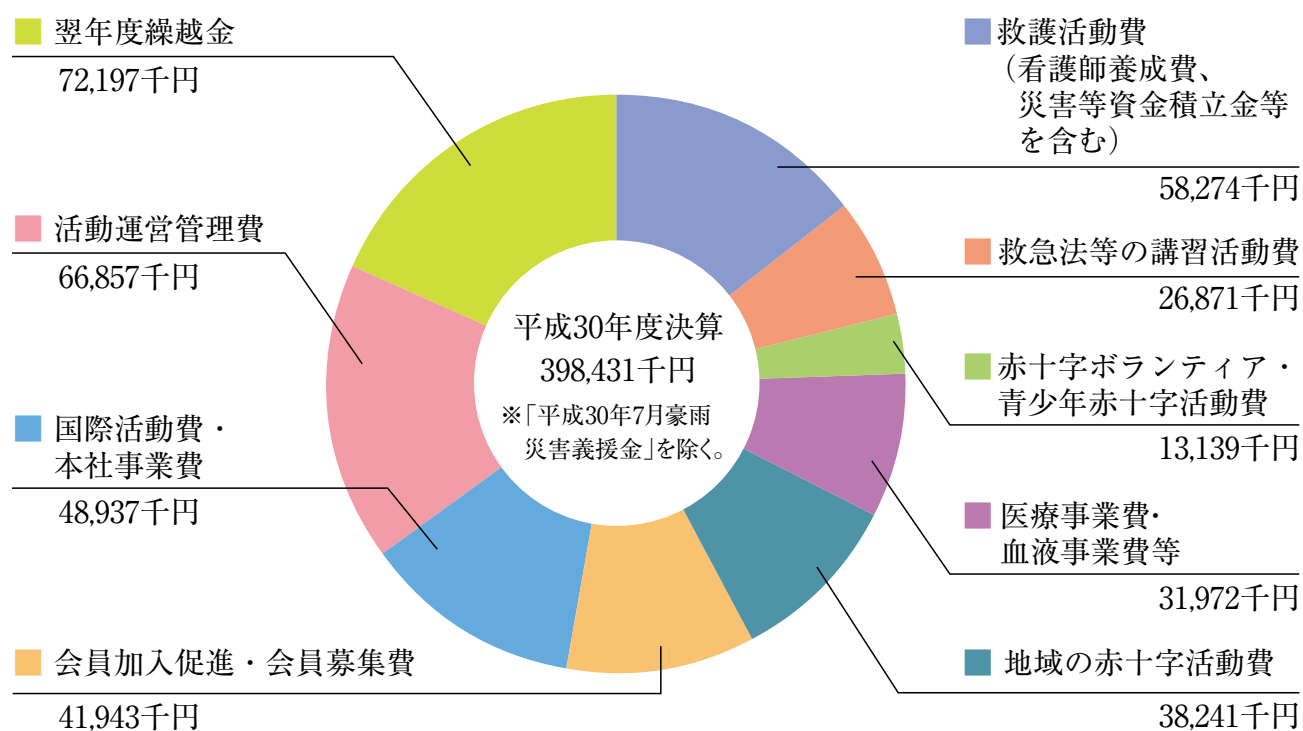
科 目	決算額
活動資金（会費および寄付金）収入	316,492
資金繰入金収入等	17,747
本社交付金収入	715
各種講習教本代等雑収入	5,082
前年度繰越金	58,395
歳 入 計	398,431
救護活動費（看護師養成費、災害等資金積立金等を含む）	58,274
救急法等の講習活動費	26,871
赤十字ボランティア・青少年赤十字活動費	13,139
医療事業費・血液事業費等	31,972
地域の赤十字活動費	38,241
会員加入促進・会員募集費	41,943
国際活動費・本社事業費	48,937
活動運営管理費	66,857
翌年度繰越金	72,197
歳 出 計	398,431

●平成30年7月豪雨災害義援金

(単位：千円)

受付額	11,310,256
岡山県災害義援金配分委員会への送金額	11,149,583

※差額160,673千円は令和元年度に送金予定



名 簿

日本赤十字社役員名簿（岡山県支部選出）

平成31年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
理事	中島 博	岡山県経済団体連絡協議会 座長	平成22年4月1日
理事	加藤 恵子	赤十字奉仕団岡山県支部委員会 委員長	平成28年4月1日
代議員	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長	平成18年3月1日
代議員	中島 博	岡山県経済団体連絡協議会 座長	平成22年2月14日
代議員	松田 久	両備ホールディングス株式会社 代表取締役社長	平成25年2月14日
代議員	宮長 雅人	株式会社中国銀行 取締役頭取	平成28年2月14日
代議員	松山 正春	岡山県医師会 会長	平成31年2月14日
参与	相沢 八郎	元日本赤十字社岡山県支部 事務局長	平成3年4月1日

日本赤十字社岡山県支部役員名簿

平成31年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
支部長	伊原木 隆太	岡山県知事	平成24年11月12日
副支部長	中島 博	岡山県経済団体連絡協議会 座長	平成22年1月23日
副支部長	萩原 誠司	岡山県市長会 会長・美作市長	平成29年6月14日
監査委員	宮崎 孝司	元川上町長	平成19年1月23日
監査委員	平松 卓雄	前岡山県社会福祉協議会 常務理事	平成30年10月20日
参与	中谷 祐貴子	岡山県保健福祉部長	平成30年7月31日
参与	那須 信行	岡山県保健福祉部次長	平成30年4月1日
顧問	中西 一議	前日本赤十字社岡山県支部 事務局長	平成26年4月1日

日本赤十字社岡山県支部評議員名簿

平成31年3月31日現在

No.	氏名	選出地区	公職名	就任年月日
1	大森 雅夫	岡山市	岡山市長	平成25年10月9日
2	塩見 槇子	〃	岡山市連合婦人会 会長	平成25年4月1日
3	内田 通子	〃	岡山市社会福祉協議会 会長	平成22年10月26日
4	藤原 繁利	〃	岡山市社会福祉協議会 副会長	平成29年8月14日
5	伊東 香織	倉敷市	倉敷市長	平成20年5月19日
6	虫明 正雄	〃	倉敷市社会福祉協議会 会長	平成25年12月26日
7	中桐 泰	〃	倉敷市社会福祉協議会 副会長	平成29年4月1日
8	土屋 紀子	〃	倉敷市婦人協議会 会長	平成30年5月29日
9	谷口 圭三	津山市	津山市長	平成30年3月12日
10	黒田 晋	玉野市	玉野市長	平成18年1月11日
11	小林 嘉文	笠岡市	笠岡市長	平成28年4月24日
12	大舌 勲	井原市	井原市長	平成30年9月16日
13	片岡 聡一	総社市	総社市長	平成19年12月4日
14	近藤 隆則	高梁市	高梁市長	平成21年1月16日
15	池田 一二三	新見市	新見市長	平成29年2月20日
16	田原 隆雄	備前市	備前市長	平成29年4月24日
17	武久 顕也	瀬戸内市	瀬戸内市長	平成21年7月21日
18	友實 武則	赤磐市	赤磐市長	平成25年4月17日
19	太田 昇	真庭市	真庭市長	平成25年4月24日
20	萩原 誠司	美作市	美作市長	平成26年3月30日
21	栗山 康彦	浅口市	浅口市長	平成22年4月23日
22	山本 雅則	備前	吉備中央町長	平成24年10月24日
23	草加 信義	〃	和気町長	平成30年4月16日
24	中川 真寿男	備中	早島町長	平成27年8月28日
25	加藤 泰久	〃	里庄町長	平成30年2月5日
26	山野 通彦	〃	矢掛町長	平成18年6月29日
27	小倉 博俊	美作	新庄村長	平成26年9月8日
28	青野 高陽	〃	美咲町長	平成30年12月9日
29	片山 篤	〃	久米南町長	平成28年7月24日
30	山崎 親男	〃	鏡野町長	平成19年2月14日
31	水嶋 淳治	〃	勝央町長	平成23年9月12日
32	奥 正親	〃	奈義町長	平成31年2月15日
33	青木 秀樹	〃	西粟倉村長	平成23年9月12日
34	松田 久	支部長	両備ホールディングス株式会社 代表取締役社長	平成25年2月14日
35	松田 正己	〃	株式会社山陽新聞社 代表取締役社長	平成25年2月14日
36	岡崎 彬	〃	岡山商工会議所 会頭	平成13年2月14日
37	桑田 茂	〃	山陽放送株式会社 代表取締役社長	平成29年6月29日
38	大本 万平	〃	株式会社大本組 代表取締役社長	平成25年2月14日
39	金谷 征正	〃	岡山県商工会連合会 会長	平成30年5月30日
40	大西 泰子	〃	岡山県婦人協議会 会長	平成30年5月28日
41	梶原 美砂子	〃	岡山県商工会議所女性会連合会 特別顧問	平成10年2月14日

地域赤十字奉仕団名簿

平成31年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	分団数	班数	団員数(人)		
							男	女	計
1	岡山市赤十字奉仕団	昭和21年12月6日	塩見 楨子	平成25年4月1日	42	509	0	8,120	8,120
2	岡山市御津赤十字奉仕団	昭和28年5月1日	加藤 恵子	平成8年4月1日	1	6	1	140	141
3	倉敷市倉敷赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	大矢 禎子	平成19年4月1日	5	15	0	345	345
4	倉敷市児島赤十字奉仕団	平成11年4月1日	内田 房子	平成25年4月1日	0	8	0	100	100
5	倉敷市玉島赤十字奉仕団	昭和31年4月1日	瀧澤 英子	平成19年4月1日	6	0	0	100	100
6	倉敷市真備赤十字奉仕団	昭和40年5月1日	松王 資子	平成28年4月1日	1	4	0	97	97
7	津山市赤十字奉仕団	昭和39年5月1日	有岡 恵子	平成16年4月1日	0	0	0	32	32
8	玉野市赤十字奉仕団	昭和32年4月1日	西山 義秀	平成26年6月5日	11	6	77	95	172
9	笠岡市赤十字奉仕団	昭和42年4月1日	吉岡 祥子	平成27年4月25日	4	4	0	260	260
10	井原市赤十字奉仕団	昭和32年1月1日	佐藤 美保	平成30年5月5日	0	6	0	3,151	3,151
11	総社市赤十字奉仕団	昭和32年4月10日	山口 久子	平成22年6月18日	11	0	12	801	813
12	高梁市赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	田村 順子	平成30年4月27日	3	0	0	245	245
13	高梁市有漢町赤十字奉仕団	昭和31年5月21日	佐分利 睦子	平成30年5月27日	1	1	5	40	45
14	高梁市成羽町赤十字奉仕団	昭和38年9月6日	黒川 利子	平成30年4月1日	1	4	0	106	106
15	高梁市川上町赤十字奉仕団	昭和44年10月6日	中山 美江	平成22年5月7日	1	1	5	93	98
16	新見市赤十字奉仕団	昭和31年12月1日	池永 繁子	平成22年4月1日	0	0	0	119	119
17	新見市大佐赤十字奉仕団	平成14年12月17日	平田 国子	平成19年4月26日	0	0	7	26	33
18	新見市神郷赤十字奉仕団	平成19年4月1日	垣上 敦子	平成30年4月1日	1	1	1	78	79
19	新見市哲多町赤十字奉仕団	昭和51年2月20日	永田 喜代	平成26年5月22日	1	3	4	45	49
20	新見市哲西町赤十字奉仕団	平成14年4月22日	小田 清	平成21年6月16日	0	0	29	35	64
21	備前市赤十字奉仕団	平成12年7月12日	榎田 淑子	平成19年4月1日	8	0	0	198	198
22	赤磐市赤坂赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	小西 清美	平成22年4月1日	1	1	0	80	80
23	真庭市赤十字奉仕団	昭和43年4月1日	國本 幸恵	平成23年7月29日	3	0	6	178	184
24	美作市勝田赤十字奉仕団	平成18年4月1日	松本 基	平成28年12月1日	1	16	13	3	16
25	美作市美作赤十字奉仕団	昭和39年9月1日	栗井 澄子	平成26年6月1日			2	12	14
26	美作市作東赤十字奉仕団	平成3年4月1日	山本 文子	平成15年4月1日	1	4	0	58	58
27	浅口市金光赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	山田 直子	平成20年4月1日	12	20	0	110	110
28	浅口市鴨方赤十字奉仕団	昭和38年5月6日	筒井 由紀子	平成28年4月1日	11	0	0	113	113
29	和気町赤十字奉仕団	昭和31年6月1日	小金谷 香代子	平成26年4月1日	1	1	0	35	35
30	早島町赤十字奉仕団	昭和46年12月20日	河田 智子	平成18年4月1日	1	0	0	112	112
31	里庄町赤十字奉仕団	平成14年1月8日	山田 恵津子	平成20年4月1日	1	20	0	954	954
32	勝央町赤十字奉仕団	昭和28年4月10日	田村 政士	平成29年1月1日	1	1	21	12	33
33	美咲町赤十字奉仕団	昭和32年9月1日	大西 泰子	平成17年3月22日	0	3	0	552	552
34	久米南町赤十字奉仕団	昭和59年4月1日	片山 朋子	平成30年4月1日	3	3	0	213	213
合計					130	634	152	16,513	16,665

青年赤十字奉仕団名簿

平成31年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	岡山県青年赤十字奉仕団	昭和28年5月1日	高坂 彩夏	平成30年4月28日	11	10	21
2	岡山赤十字看護専門学校学生奉仕団	昭和46年2月16日	石川 愛	平成29年4月1日	11	110	121
3	川崎医療福祉大学学生赤十字奉仕団 R.C.Y.Will	平成3年12月15日	伊藤 輝人	平成28年4月1日	10	30	40
合計					32	150	182

特殊赤十字奉仕団名簿

平成31年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	日本赤十字社岡山県支部機動奉仕団	昭和41年9月8日	前田 晁	平成17年9月7日	25	4	32
2	岡山県赤十字点訳奉仕団	昭和42年7月15日	宇津木 順一郎	昭和46年7月15日	7	25	32
3	日本赤十字社岡山県支部安全法奉仕団	平成9年6月1日	白木 聡一	平成30年4月21日	83	84	167
4	岡山ライフセービング赤十字奉仕団	平成11年6月8日	熊澤 一彦	平成30年5月19日	26	7	33
5	岡山県青少年赤十字賛助奉仕団	平成16年4月20日	鴨井 正博	平成30年4月24日	24	3	27
6	岡山県赤十字救護奉仕団	平成18年3月3日	鈴木 健二	平成18年3月3日	51	30	81
合計					216	153	372

岡山県赤十字有功会役員名簿

平成31年3月31日現在

役職名	氏名	公職名
名誉会長	池田 厚子	
会長	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長
副会長	西下 裕平	平和タクシー株式会社 代表取締役
会計監査	石井 美津枝	岡山商工会議所女性会 名誉会長
会計監査	田上 實	株式会社田之上建設 代表取締役会長
理事	吉田 昌子	有限会社吉田商事 専務
理事	全本 親民	株式会社ソフィア 代表取締役
理事	松田 久	両備ホールディングス株式会社 代表取締役社長
理事	永山 久夫	岡山プラザホテル株式会社 代表取締役社長
理事	恵谷 龍二	株式会社ケイコーポレーション 代表取締役社長
理事	平松 晃弘	平松エンタープライズ株式会社 代表取締役社長
理事	平田 啓子	西日本株式会社 代表取締役
理事	高木 晶悟	株式会社トマト銀行 取締役社長
理事	千原 行喜	岡山県遊技業協同組合 理事長
理事	遠藤 俊夫	岡山県貨物運送株式会社 代表取締役社長
理事	桑田 茂	山陽放送株式会社 代表取締役社長
理事	加藤 貞則	株式会社中国銀行 代表取締役専務
顧問	榊原 宣	心臓病センター榊原病院 名誉理事長
顧問	岡崎 彬	岡山ガス株式会社 取締役社長
顧問	大原 謙一郎	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 代表理事理事長
顧問	木住 勝美	株式会社天満屋 代表取締役会長
顧問	松田 正己	株式会社山陽新聞社 代表取締役社長
幹事	豊田 ひとみ	日本赤十字社岡山県支部 事務局長



最新情報はFacebookページをご覧ください

<https://www.facebook.com/japaneseredcross.okayama>



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

岡山県支部

〒700-0823 岡山市北区丸の内二丁目7番20号 TEL 086-221-9595 FAX 086-221-9599 <http://www.okayama.jrc.or.jp>